

P2-43-9 帝王切開後の妊娠間隔と次回妊娠転帰に関する検討

聖隷浜松病院

加藤晴子, 松下 充, 武藤はる香, 神農 隆, 村越 毅, 成瀬寛夫, 中山 理, 鳥居裕一

【目的】満期帝王切開分娩後の次回妊娠に至る間隔と次回分娩期間の関連を探る。【方法】2006年4月から2012年3月に当院で管理した単胎初産婦で正期帝王切開分娩後に、次回妊娠分娩管理も当科で行った例を対象とし、妊娠間隔と次回分娩期間について検討した。妊娠間隔は、初回分娩日から次回妊娠成立時の最終月経までの週数と定義した。次回妊娠において、初期流産もしくは中絶例は除外した。統計学的検討にはカイ2乗検定、Fisherの検定を用いた。【成績】初産婦正期帝王切開が870例に施行されたうち、114例の次回妊娠管理が行われていた。初回妊娠時年齢は30歳(19-40)、妊娠間隔は85週(15-210)であった。次回妊娠の分娩週数は正期産112例(98.2%)、中期流産1例(0.9%)、早産1例(0.9%)であった。次回分娩時の試験分娩(TOLAC)は35例(30.7%)で行われ、帝王切開後経陰分娩(VBAC)は24例(68.6%)であった。妊娠間隔6カ月未満の2例は正期産であった。妊娠間隔1年未満の12例は全て正期産であった。妊娠間隔1年以上の112例中、流早産を2例(1.8%)認めた。妊娠間隔1年未満と流早産の関連を認めず($p=0.80$)、妊娠間隔とTOLAC成功率にも関連を認めなかった($p=0.51$)。【結論】妊娠間隔が1年未満では次回妊娠において流早産の増加や、TOLAC成功率と関連を認めなかったが、少ない数での検討であり今後の症例の蓄積が望まれる。

P2-43-10 既往帝王切開術後妊娠におけるVBAC例の検討

福井大¹, 舞鶴共済病院²加藤加奈¹, 杉田元気², 福田 真², 河原和美², 西島浩二¹, 吉田好雄¹

【目的】既往帝王切開術後妊娠における分娩方式は個々の施設での判断に任されている。しかし、多くの施設で、帝王切開術の既往がある妊婦に対して経陰分娩を施行(TOLAC)することをせず、選択的帝王切開術が行われている。当院では患者の希望があり、医学的条件が確認されれば、TOLACを施行している。そこでTOLACを行い経陰分娩が成功した症例(VBAC)を後方視的に解析し、TOLACをより安全に管理する要因を検討した。【方法】2007年1月から2011年12月までの、当院での全分娩から既往帝王切開術後妊娠を抽出し、分娩方法・TOLAC施行例・VBAC例を検討した。【成績】対象期間の全分娩数は2993例、既往帝王切開術後妊娠は176例で、このうち前回2回以上帝王切開術の既往のある症例が26例、多胎・胎位異常が7例、筋腫核出術の既往がある症例が3例、T字切開術を施行している症例が2例、常位胎盤早期剝離が1例、内科的適応が1例以外の136例にTOLAC施行した。VBAC例は124例で成功率は91.2%であった。不成功例は分娩停止が8例、胎児機能不全が4例で、緊急帝王切開に移行した。TOLACを施行した症例に、子宮破裂症例はなく切迫子宮破裂症例もなかった。【結論】帝王切開術の既往がある妊婦において、分娩管理はもちろん、適応症例を的確に評価することによりVBAC症例数を増加させることが可能と考えられた。

P2-43-11 当院におけるTOLACの検討とVBAC成功率向上への試み

堀病院

越後谷朋子, 佐治正彦, 外山和秀, 五来逸雄, 堀 裕雅

【目的】近年帝王切開率は増加傾向にあるが、TOLAC(trial of labor after cesarean)可能施設は激減している。これまでの報告ではVBAC成功率は60%~90%とされているが、成功率向上について当院におけるTOLAC症例を検討し、誘発・促進を含めた試みを報告する。【方法】当院で2005年~2011年の7年間に取扱いしたTOLAC432例につきVBAC成功例と不成功例をそれぞれ後方視的に検討し、分娩直前の微弱陣痛に対するoxytocin使用と40週以降の未陣発症例に試行した誘発がVBAC成功率向上に結びついているかを検討した。【成績】7年間での総分娩数20313人の帝王切開率4.9%、TOLAC例432人、VBAC成功例407人(94.2%)であった。子宮口開大8cm以上で微弱陣痛のためoxytocinを使用した29例は全例VBAC成功例であった。oxytocinの平均使用時間は2時間16分であり最長使用時間は9時間であったが子宮破裂は認めていない。成功例と不成功例の間で母体平均年齢、平均出生時体重、前回帝王切開適応などの分析では有意差は認められなかった。40週までのVBAC成功率は(285/295)96.6%に対し40週以降の成功率は(122/137)89.1%と有意に低かった($p<0.01$)。40週以降のVBAC成功例122人中81%の99人は自然陣発し、未陣発23人(19%)に対し、ラミナリア、メトロイリントル等で機械的刺激による陣発を待ち、微弱陣痛に対してoxytocinを使用することによりVBAC成功に結びつけることができた。【結論】VBAC希望の症例に対する対応は施設により差があると思うが、2011ガイドラインにおいて誘発、oxytocin使用は禁忌ではない。安全に配慮した積極的な医療の介入が、VBACの成功率を向上させることが示唆された。